

3 設 計

Q-29 合成梁を設計する場合、フラットデッキ型枠工法を採用することによって頭付きスタッドの軸径や長さには制約が生じるか？

A

フラットデッキは合成デッキや旧 JIS 系デッキと異なり、上面がフラットかつ梁天端と高さ位置が同一となる特徴を保有しています。したがって等厚の一般的なコンクリートスラブの施工が可能です。そのため、頭付きスタッドの軸径や長さに関しては、合板型枠を使った従来の等厚スラブの時と同様の規準を適用して下さい。フラットデッキ工法の場合で特に注意する点としては以下の事項が考えられます。

- 1) 原則として、頭付きスタッドは直接鉄骨梁に溶接して下さい。
- 2) 頭付きスタッドがフラットデッキに掛かる場合、板が折り重なっている部分は避けて貫通スタッド溶接を行ってください。

(貫通スタッド溶接：日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」参照)

